

動詞 work の様態はどう決まるのか
—訳出された様態に着目して—

出水孝典（神戸学院大学）

demizu@human.kobegakuin.ac.jp

関西言語学会(KLS)第 48 回大会 (@Zoom)

1. はじめに

◆英語学習書で説明されている動詞 work の意味

- (1) a. この動詞にはいろいろな意味があるため、文章を読んでいると、どの意味で使っているのか混乱してしまうようです。しかし、ネイティブは「主体（人・物）が本来の役割を果たそうとする」というイメージでこの単語をとらえています。[...] ネイティブにとって、work の基本イメージはひとつしかありません。主語が労働者であれば、その work は「働く」ですし、学生ならば「勉強する」、機械ならば「動く」、計画ならば「うまくいく」、薬ならば「効く」という具合なのです。要するに、主語を見て、あるべき役割を考えてみればよいのです。

（クラフト 2022: 12）

b. 「働く」以外の意味で使えますか？

work は「働く」という意味が基本だが、The elevator is working again. や Your plan will never work. など「働く」以外の意味で使われている例を見たことがあるだろう。work は「働く、仕事をする」から転じて、「期待されている役割を果たす」というニュアンスがある。例えば、美容師の仕事は髪を切ることで、消防士の仕事は火を消すことだ。それでは、エレベーターの“仕事”は何かと言ったら、人を上下階に運ぶこと。つまりエレベーターが「期待されている役割を果たしている」とは、「きちんと人を運んでいる」ということ。このように work は「**（機械などが）正常に作動・機能する**」という意 で用いられる。

（高橋 2023: 72）

⇒残る疑問

- ・「本来の役割」「期待されている役割」はどのように決まるのか
- =どのような場合に work していると判断されるのか？

◆本発表の主張

- (A) 動詞 work は特定の状況ではなく漠然とした行為の目的を表わすので「**解釈的様態動詞**」「**目的動詞**」である
- (B) 具体的な様態である「**本来の役割**」「**期待されている役割**」は、主語や目的語の名詞が有する特質構造の目的役割から読み出される

2. 動詞 work の「目的動詞」としての位置付け

2.1. 動詞 work に言及した先行研究

◆Quirk et al. (1985): 非完結的で持続的な「活動」の一種として work を位置付け

- (1) Nonconclusive and durative → Nonagentive D. **GOINGS-ON** eg: rain, snow, boil, shine, glow
→ Agentive E. **ACTIVITIES** eg: drink, sew, write, hunt, play (t), talk

(Quirk et al. 1985: 201)

- (2) a. Type E is agentive. (タイプ E は動作主的だ)
b. Type E: ACTIVITIES (タイプ E : 「活動」)

These (in contrast with Type G) are typically expressed by intransitive verbs with animate subjects:

（これらは（タイプ G とは対照的に）有生の主語を伴う自動詞によって表わされるのが典型である）

Jill was writing/working/singing/dancing/eating/sewing/swimming/ etc.

(Quirk et al. 1985: 207)

◆Schlesinger (1995)による活動動詞の2分類→Quirk et al. (1985)に対する修正案で work = 「拡散的」

- (3) (i) *Activity verbs* Intuitively, it seems that this class is a mixed bag. Among the examples given by Quirk et al. there are some verbs, such as work and *abandon*, that do not appear to refer to any specific situation, whereas others, like *drink*, *slice*, and *write*, may evoke a relatively specific image. I shall therefore distinguish between two classes of Activity verbs, which will be called **specific** and **diffuse**. It is realized that these concepts in fact form a gradient. (Schlesinger 1995: 182)

((i) 「活動動詞」直観的に言えば、この分類は寄せ集めのように思える。Quirk et al. が挙げている例の中には、work や *abandon* のように特定の状況は指示していないように見えるものもあれば、*drink*, *slice*, *write* のように割と特定のイメージを喚起するものもある。それゆえ私は2種類の活動動詞を区別し、「特定の」と「拡散的」と呼ぶことにする。これらの概念は実際には段階性をなすと理解されている)

◆Ausensi (2022)が非能格動詞の例として動詞 work を挙げ、以下のような判別テストで例証

- (4) a. The CEO worked *(herself) tired. (Ausensi 2022: 58)
b. *There worked two farmers inside the barn. (Ausensi 2022: 57)
c. Elizabeth worked her way to the top, #but didn't get to the top. (Ausensi 2022: 42)

2.2. 特定の状況を指示しない動詞に関する先行研究

◆Schlesinger (1995)による「拡散的」活動動詞（その一例として work を含む）

◆社会心理学研究者 Semin and Fiedler (1992)による「解釈行為動詞」：詳細は出水 (2019: 57-59)を参照

◆Fellbaum (2013)が様態動詞でも結果動詞でもない第3の分類として提唱した「目的動詞」

- (5) We will refer to verbs like *exercise*, *treat*, *cheat*, *control* and *help* as PURPOSE VERBS, and we assume that their lexical-semantic structure includes a meaning component that could be labeled PURPOSE.

(Fellbaum 2013: 374)

(我々は *exercise*, *treat*, *cheat*, *control*, *help* のような動詞を「目的動詞」と呼び、その語彙意味構造に含まれる意味の構成要素が「目的」のラベルをはることのできるものだと仮定する)

◆Fellbaum は Pustejovsky の言う「機能事象」の一部として、「目的動詞」を位置付けている

- (6) Functional Events include purpose verbs, but the broad definition of Functional Events further encompasses verbs that are not purpose verbs. Beyond the agentivity and intentionality for Functional Events like *eat* cited by Pustejovsky (2001), purpose verbs imply a purpose or telicity of the event that the Agent has in mind.

(Fellbaum 2013: 378)

(「機能事象」は「目的動詞」を含んでいるが、「機能事象」の定義は広く、「目的動詞」ではない動詞もさらに包含している。Pustejovsky (2001)の挙げている「食べる」(*eat*)のような「機能事象」は動作主性や意図性を有するが、目的動詞はそれ以外に、動作主が念頭に置く事象の目的、目的性を必ず伴っている)

◆「機能事象」と「目的動詞」の特徴付けと違いについての Fellbaum の説明

- (7) The Generative Lexicon (Pustejovsky 1995, 2001) classifies some verbs as Functional Events. Examples given in Pustejovsky (2001) are *eat*, *feed*, *greet*, and *spoil*. Functional events are characterized by telic and/or agentive roles in the qualia of the verbs' arguments, i.e., the semantics of the verb arise from those of its

arguments.

(Fellbaum 2013: 378)

（生成語彙は一部の動詞を「機能事象」に分類している。Pustejovsky (2001)の例は「食べる」「餌をやる」「挨拶する」「台無しにする」だ。機能事象を特徴づけるのは、その動詞の項がもつ特質の「目的役割」や「主体役割」であり、動詞の意味がその項のそうした部分に起因しているということなのだ）[発表者注：Pustejovsky (2001)は greet を例として挙げていないので不正確な言及]

- (8) The telic role here that defines the event as functional is that of the verb's argument (*food*). By contrast, the purpose or goal that defines a purpose verb resides in the event and not in the telic role of the arguments. [...] A purpose or goal presupposes an agentivity and intention, but not the telic roles of the participants.

(Fellbaum 2013: 378)

（「食べる」(eat)という] 事象を機能的であると定義しているこの場合の「目的役割」は、動詞の項「食べ物」(food)のものである。対照的に、「目的動詞」を定義する目的や目標が存するのは、事象その物であり、事象の項の「目的役割」ではない。[...] 目的や目標は動作主性や意図を前提とするが、参与者の目的役割は前提としない）

- ★「機能事象」が「目的動詞」を含む以上、「目的動詞」の解釈にも、参与者の目的役割が（前提としなくても）関与しないと本発表では想定する

→この辺りの特徴付け、位置付けに関して Fellbaum には不十分・不明確な点があると言える

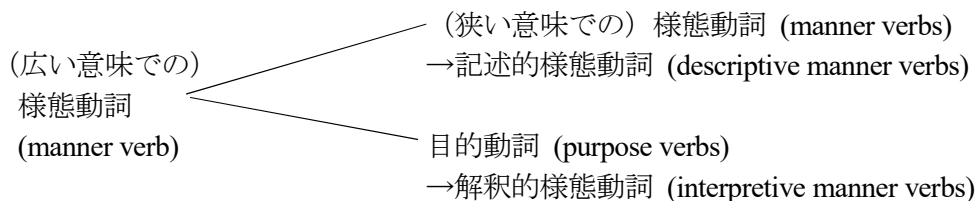
2.3. 様態動詞の下位分類としての目的動詞の位置付け

- ◆目的動詞を様態動詞の一種として位置づけるという出水 (2019)の提案

- (9) Levin と Rappaport Hovav は、様態と結果という概念を、それぞれ尺度のない変化とある変化という二分法に基づく形で 2008 年以降再定義しました。さらに重要なのは、Fellbaum (2013)が目的動詞の例として挙げている動詞 *exercise* が、2.4.2 節で見たように、Rappaport Hovav and Levin (2010: 33)で漠然とした活動としての尺度のない変化を表す動詞として挙げられていることです。ということは、目的動詞というのは、Fellbaum の言うような第3の分類ではなく、むしろ様態動詞の一種だと考える方が妥当なように思われます。(出水 2019: 55)

- ◆Semin and Fiedler (1992)のいう記述行為動詞・解釈行為動詞はいずれも、広い意味での様態動詞

- (10) 尺度のない変化を表し様態動詞とこれまで呼ばれてきたものの中には、明確な様態を記述しているものと、漠然とした目的を解釈しているものの2種類があり、これらはともに、広い意味での様態動詞の下位分類だということになります。これは以下のように図示できます。



(出水 2019: 60-61)

- ★動詞 work を目的動詞＝解釈的様態動詞だと位置付ければ、Ausensi (2022)が非能格動詞の例として動詞 work を挙げていた(4)の例も、典型的な様態動詞の振る舞いなので、矛盾なしに説明できる

3. 動詞 work とその各国語訳から読み解けること

◆英米作家によって書かれた 9 冊の英語小説より、501 例の用例とその日本語訳・フランス語訳・ドイツ語訳・中国語訳の対応箇所を収集したデータを用い、状態が読み取られて翻訳されている場合に着目する

3.1. いわゆる直訳になっている例

◆英語動詞の work が日本語の「働く」「(仕事を) やる」、フランス語の travailler、ドイツ語の arbeiten、中国語の「工作」(gōngzuò)で訳されている場合

→目的動詞の work を対応する言語の目的動詞で直訳することにより、読者に主語の目的役割から具体的内容を読み取らせる訳出の仕方

・ある組織での勤務を表わす例

(11) E. Never before had she felt so proud to be a Catholic and so ashamed to *work* at CERN.

(Dan Brown, *Angels and Demons* (New York: Pocket Star Book, 2000) 385)

J. これほど自分がカトリックであることを誇りに感じ、セルンで働いていることを恥じたのははじめてだ。

(ダン・ブラウン『天使と悪魔』越前敏弥（訳）（東京：角川文庫，2006 年）下 28)

F. Jamais elle n'avait été aussi fière d'être catholique, ni aussi honteuse de *travailler* pour le CERN.

Never she had been as proud of-being Catholic nor as ashamed to *work* for the-CERN

(*Anges et Démons*, trans. Daniel Roche (Paris: Éditions Jean-Claude Lattès, 2005) 435)

G. Nie zuvor hatte sie sich so stolz gefühlt, Katholikin zu sein, und nie zuvor hatte sie

Never before had she herself so proud felt Catholic to be and never before had she

sich so sehr dafür geschämt, bei CERN zu *arbeiten*.

herself so much for-it ashamed at CERN to *work*

(*Anges et Démons*, trans. Axel Merz (Köln: Bastei Lübbe, 2003) 483)

C. 以前 她 从 没 觉得 作为 一个 天主教徒 是 那么 的 自豪，

Yǐqián tā cóng méi jué · de zuòwéi yīgè Tiānzhǔjiàotú shì nà · me de zìháo

before she from not feel recognize-as a Catholic be like-that proud

而 在 “欧核中心” 工作 又 是 那么 地 令 她 羞愧。

ér zài ōuhézhōngxīn gōngzuò yòu shì nà · me de lìng tā xiūkuì

and at CERN (to) *work* also be that make her ashamed

(丹·布朗『天使与魔鬼』朱振武 王巧俐 信艳（译）（北京：人民文学出版社，2009）291)

・仕事をするを表わす例

(12) E. ... a voice said, “You’re *working* late, Emil.”

(Sidney Sheldon, *Bloodline* (New York: William Morrow and Company, 1977) 322)

J. …声がした。「おそくまでやってるね、エミール」

(シドニイ・シェルドン『華麗なる血統』大庭忠男（訳）（東京：ハヤカワ文庫，1982 年）315)

F. ... quelqu’un dit : « Vous *travaillez* bien tard, Emil. »

...someone said: “You *work* very late Emil.”

(*Liés par le Sang*, trans. Corinne Mourroux et Nathalie Roquelaure (Paris: Presses-Pocket, 1980) 276)

G. Eine Stimme drang an sein Ohr. »Sie *arbeiten* aber lange, Emil.«

A voice penetrated to his ear “You *work* really long Emil.”

(*Blutspur*, trans. Martin Lewitt (Berlin: Ullstein, 2008) 327)

C. 朱普利 听 到 背后 传来 一个声音：“你 工作 到 这么 晚 啊？

Zhūpǔlǐ tīng dào bèihòu chuán/lái yīgè shēngyīn nǐ gōngzuò dào zhè · me wǎn ā

Joepli heard to back passed a voice you *work* to so late huh

埃米尔!”

Äimier

Emil!”

(西德尼・谢尔『朱门血痕』金戈 (译) (南京: 译林出版社, 2007) 303)

3.2. 主語の目的役割が代入されて訳されている場合

3.2.1. 主語が人の場合

◆scientist (科学者) は study が仕事→QUALIA = [TELIC = study (e,x)] (cf. Pustejovsky 1995: 129)

- scientist = a person who studies or is an expert in one or more of the natural sciences (= for example, physics, chemistry or biology) (OALD)

→それが代入されて日本語訳されている

- (13) E. “I’m trying to protect not only the jobs of the three thousand scientists who *work* here, but also your father’s reputation.” (Dan Brown, *Angels and Demons* (New York: Pocket Star Book, 2000) 97)
- J. 「わたしは、ここで研究する三千人の科学者の職だけでなく、レオナルドの名声も守ろうとしている」
(ダン・ブラウン『天使と悪魔』越前敏弥 (訳) (東京: 角川文庫, 2006 年) 上 172)

◆mechanic (整備士, 修理工) は repair が仕事→QUALIA = [TELIC = repair (e,x)]

- mechanic = a person whose job is repairing machines, especially the engines of vehicles (OALD)

→それが代入されて日本語訳・中国語訳されている

- (14) E. Although the garage was dimly lit, there was a pool of light on the far side where two mechanics were working on a four-wheel-drive pickup.
(Clive Cussler with Jack Du Brul, *Plague Ship* (New York: Berkley Book, 2009) 356)
- J. ガレージの照明は暗かったが、向こうのほうでふたりの機械工が四輪駆動のピックアップを整備していて、そこだけは明るかった。
(クライブ・カッスラー、ジャック・ダブルル『戦慄のウイルス・テロを阻止せよ!』伏見威蕃 (訳) (東京: ソフトバンク文庫, 2009 年) 下 79)
- C. 尽管 车库 里面 光线 昏暗, 不过 远处 有 一摊 光线,
jǐnguǎn chēkù lǐmiàn guāngxiàn hūn'àn bùguò yuǎnchù yǒu yītān guāngxiàn
even though garage inside light dim but far-side had a-pool-of light
两名技工正在灯下面修理着一部 四轮驱动的 敞篷 小货车…
liǎngmíng jìgōng zhèng zài dēng xiàmiàn xiūlǐ zhe yībù sìlúnqūdòngde chǎngpéng xiǎohuòchē
two technician just at light underneath repair-ing a four-wheel-drive open pickup
(克莱夫・卡斯勒 杰克・杜・布鲁『瘟疫船』程悦 (译) (北京: 九州出版社, 2010 年) 313)
- ・【修理】xiūlǐ [動] ① 修理する (超級クラウン中日辞典)

◆cleaning woman (掃除婦) は clean が仕事→QUALIA = [TELIC = clean (e,x)]

→それが代入されて日本語訳・中国語訳されている

- (15) E. When she [a cleaning woman] had *worked* here on Wednesday the week before, Herr Gassner had followed her around as though expecting her to steal something.
(Sidney Sheldon, *Bloodline* (New York: William Morrow and Company, 1977) 391)
- J. 先週の水曜日に掃除をしたときには、彼女が何か盗みでもするかのように、ガスナーがついてまわった。
(シドニー・シェルドン『華麗なる血統』大庭忠男 (訳) (東京: ハヤカワ文庫, 1982 年) 382)
- C. 这个 星期三 和 上星期 来 打扫 时, 加斯纳 先生 总
zhè · ge xīngqīsān hé shàngxīngqī lái dǎsǎo shí jiāsīnà xiānsheng zǒng
this Wednesday and last-week INTENSIFIER clean time Gassner Mr always

是 跟前跟后 似的, 好像 她 会 顺手牵羊; ...
 shì gēnqiángēnhòu shì · de hǎoxiàng tā huì shùnrshòuqiānyáng
 be in-front-of-and-behind-her like as-if she might walk-off-with

（西德尼・谢尔『朱门血痕』金戈（译）（南京：译林出版社，2007）366）

・【打扫】dǎsǎo [動] 掃除する（超級クラウン中日辞典）

◆doctor（医師）は treat が仕事→QUALIA=[TELIC=treat (e,x)] ⇒その前段階は「診察」

・doctor=a person who has been trained in medical science, whose job is to treat people who are ill or injured(OALD)

(16) E. As she was laid on a stretcher, two doctors worked over her briefly.

(Arthur Hailey, *Hotel* (New York: Dell Book, 1991) 430)

J. 担架に載せられた彼女を二人の医師が簡単に診察した。

（アーサー・ヘイリー『天使と悪魔』高橋豊（訳）（東京：新潮文庫，1974 年）下 296）

3.2.2. 主語が物・事の場合

◆drug（薬品）は affect ... (=produce an effect or change in ...)することを意図して投与されるもの

→QUALIA=[TELIC=produce an effect or change (e,x,y)]

・drug=a substance other than food intended to affect the structure or function of the body (merriam-webster.com)

→各国語訳でそれが代入された訳になっている

(17) E. Juan let a few more minutes trickle by, to give the drug time to work, before entering the restroom.

(Clive Cussler with Jack Du Brul, *Plague Ship* (New York: Berkley Book, 2009) 460)

J. カブリーヨはさらに数分置いて、アルアシムに飲ませた薬が効くのを待ち、洗面所にはいった。
 （クライブ・カッスラー、ジャック・ダブラル『戦慄のウイルス・テロを阻止せよ！』伏見威蕃（訳）（東京：ソフトバンク文庫，2009 年）下 213）

F. Avant d'entrer, il attendit encore quelques minutes pour laisser au produit le temps
 Before entering he waited more a-few minutes to give the product the time
 de faire son effet sur al-Asim.
 to take effect on al-Asim

(*Croisière Fatale*, trans. François et Albert Vidonne (Paris: Bernard Grasset, 2011) 376)

・faire son effet 効果をもたらす <effet n.m. 2. 効果（ロワイヤル仏和中辞典第 2 版）

G. Juan ließ noch ein paar Minuten verstreichen, damit die Droge Zeit hatte,
 Juan let more a few minutes pass (by) with-it the drug time have
 ihre Wirkung zu entfalten, ehe er die Toilette betrat. neue
 its (desired) effect to develop before he the toilet entered

(*Seuchenschiff*, trans. Michael Kubiak (München: Blanvalet, 2010) 509)

・Wirkung [女]〜/〜en (英 effect) ①作用, 働き, 影響; 効果, 効きめ/

entfalten [他] [h] ①（巻いたもの・畳んだものを）広げる. ②（才能などを）発揮する
 （クラウン独和辞典第 5 版）

C. 胡安又等待了几分钟, 估摸着快到那两粒药片
 Huān yòu děngdài le jǐ fēnzhōng gūmo-zhe kuài dào nà liǎng lì yàopiàn
 Juan again waited has several minutes reckon soon come those few pills
 起效的时间了, 于是便进到了洗手间里面。
 qǐxiào de shíjiān le yúshì biàn jìn dào le xǐshǒujiān lǐmiàn
 take-effect of time then soon enter to toilet inside

（克莱夫・卡斯勒 杰克・杜・布鲁『瘟疫船』程悦（译）（北京：九州出版社，2010 年）404）

・起 qǐ [動] ⑤ 起こる. 生じる/ 效 xiào ① [素] 効果. 効き目（超級クラウン中日辞典）

◆plan（計画）は achieve some effect（効果を上げる）ことを意図して作られるもの

→QUALIA = [TELIC = achieve some effect (e,x,y)]

・ plan = a set of actions for achieving something in the future (LDOCE)

→それが達成されることを表わす訳になっている（特に日本語訳・中国語訳）

(18) E. “The plan worked.”

(Clive Cussler with Jack Du Brul, *Plague Ship* (New York: Berkley Book, 2009) 246)

J. 「ちゃんとうまくいったのに」

（クライブ・カッスラー、ジャック・ダブラル『戦慄のウイルス・テロを阻止せよ！』
伏見威蕃（訳）（東京：ソフトバンク文庫，2009 年）上 323）

F. — Le plan a très bien *fonctionné* !

“The plan has very well worked!”

(*Croisière Fatale*, trans. François et Albert Vidonne (Paris: Bernard Grasset, 2011) 204)

・ fonctionner v.i. 1. (機械・器官・組織などが)機能する，作用〔作動〕する，働く

（ロワイヤル仏和中辞典第 2 版）

G. »Der Plan hat doch *funktioniert*.«

“The plan has after-all worked. (*Seuchenschiff*, trans. Michael Kubiak (München: Blanvalet, 2010) 276)

・ funktionieren [自] [h] ①機能する，（正常に）働く（クラウン独和辞典第 5 版）

C. “C 计划 奏效 了 呀。”

“si jihuà zòuxiào le yā

“C plan *had-effect* has oh.”

（克莱夫・卡斯勒 杰克・杜・布鲁『瘟疫船』程悦（译）（北京：九州出版社，2010 年）215）

・【奏效】 zòu/xiào [動] 功を奏する．効果をあらわす．（超級クラウン中日辞典）

3.3. 目的語の目的役割が代入されて訳されている場合

◆knife（ナイフ）は cut するために使われるもの→QUALIA = [TELIC = cut (e,x,y)] (Pustejovsky 1995: 148)

・ knife = a metal blade fixed into a handle, used for cutting ... (LDOCE)

→その目的役割が代入された日本語訳・フランス語訳・中国語訳

(19) E. He bent down yet again to work the knife, ...

(Clive Cussler with Jack Du Brul, *Plague Ship* (New York: Berkley Book, 2009) 152)

J. 背中を曲げてまたナイフで切った。（クライブ・カッスラー、ジャック・ダブラル『戦慄のウイルス・テロを阻止せよ！』伏見威蕃（訳）（東京：ソフトバンク文庫，2009 年）上 201）

F. Il se pencha à nouveau et *taillada* ...

he himself leaned again and *slashed* ...

(*Croisière Fatale*, trans. François et Albert Vidonne (Paris: Bernard Grasset, 2011) 129)

・ taillader v.t. 1. (皮膚・木などに)切り傷をつける，切れ目を入れる

（ロワイヤル仏和中辞典第 2 版）

C. 他 再一次 弯曲 下 了 身体，继续 用.....小刀 割 着 防化服，...

tā zàiyīcì wānqū xià le shēntǐ jìxù yòng xiǎodāo gē zhe fánguàfú

he once-more bent down body continue use knife *cut* -en anti-chemical-clothes

（克莱夫・卡斯勒 杰克・杜・布鲁『瘟疫船』程悦（译）（北京：九州出版社，2010 年）132）

・ 割 gē [動] ①（全体から一部分を）切る．刈る（超級クラウン中日辞典）

◆handle（取っ手）は手で握って操作するために使われる部分

→QUALIA = [TELIC = hold & operate (e,x,y)]

・ handle = A part that is designed to be held or operated with the hand (ahdictionary.com)

→その目的役割の一部あるいは全部が反映された訳となっている

- (20) E. He worked the handles of a slop sink as though he were dialing a safe.
 (Clive Cussler with Jack Du Brul, *Plague Ship* (New York: Berkley Book, 2009) 32)
- J. まるで金庫のダイヤルでもまわすように、掃除用流しの蛇口をひねる。(クライブ・カッスラー、ジャック・ダブラル『戦慄のウイルス・テロを阻止せよ！』伏見威蕃（訳）（東京：ソフトバンク文庫，2009 年）上 44)
- G. Er drehte an den Wasserkränen eines Ausgussbeckens, als stellte er die Kombination eines Safes ein.
 he turned the faucet of-the-sink as adjusted he the combination of-the-safe
 (Seuchenschiff, trans. Michael Kubiak (München: Blanvalet, 2010) 42)
- ・drehen [他] [h] (英 turn) ① 回転させる，回す，ひねる（クラウン独和辞典第 5 版）
- C. 他 握 着 污水盆 的 把手，就 仿佛 正在 拨 一个 保险箱 的
 tā wò zhe wūshuǐpén de bǎshou jiù fǎngfú zhèngzài bō yí gè bǎoxiǎnxiāng de
 he grasp -en slop sink 's handle just as if right now dial a safe 's
 号码 一样。
 hàomǎ yīyàng
 number similarly
 (克莱夫・卡斯勒 杰克・杜・布鲁『瘟疫船』程悦（译）（北京：九州出版社，2010 年）29)
- ・握 wò [動] 握る．つかむ．（超級クラウン中日辞典）

◆wheel（ハンドル）は回して進む方向を制御するために使われるもの

→QUALIA = [TELIC = turn for controlling the direction (e,x,y)]

- ・wheel = the round piece of equipment that you turn to make a car, ship etc move in a particular direction (*LDOCE*)
 the round object used for controlling the direction in which a car, etc. or ship moves (*OALD*)

→その目的役割の一部あるいは全部が代入された訳となっている

- (21) E. Linda worked the wheel to foul his aim, ...
 (Clive Cussler with Jack Du Brul, *Plague Ship* (New York: Berkley Book, 2009) 227)
- J. リンダはハンドルをあやつってよけた…（クライブ・カッスラー、ジャック・ダブラル『戦慄のウイルス・テロを阻止せよ！』伏見威蕃（訳）（東京：ソフトバンク文庫，2009 年）上 299)
- G. Linda kurbelte am Lenkrad, um ihm das Zielen zu erschweren, ...
 Linda turned at-the steering-wheel in-order for-him the aim(ing) to make-more-difficult
 (Seuchenschiff, trans. Michael Kubiak (München: Blanvalet, 2010) 256)
- ・kurbeln [自] ① [h] (クランクの) ハンドルを回す（クラウン独和辞典第 5 版）
- C. 琳达 驾驶 着 车子 去 撞击 那 人 的 胳膊，…
 Líná jiàoshǐ zhe chēzi zhuàngjī nā rén de gēbo
 Linda steer -ing vehicle collide that man 's arm
 (克莱夫・卡斯勒 杰克・杜・布鲁『瘟疫船』程悦（译）（北京：九州出版社，2010 年）198)
- ・【驾车】jiàchē [動] 車両を運転する（超級クラウン中日辞典）

4. おわりに

◆各国語への翻訳で様態が訳出されているという言語事実

→実際に動詞 work の様態が英文中で解釈される場合にも、主語や目的語の特質構造に含まれる「目的役割」が、動詞の様態の漠然とした目的（つまり役割）に代入されていることを反映

◆目的動詞は参与者の目的役割は前提としないとなっているが、「機能事象」が「目的動詞」を含んでいるという位置付けである以上、一般的な「機能事象」同様、動詞 work の場合、参与者の「目的役割」が解釈に用いられると想定・説明できる

参考文献

- 影山太郎 (1999) 『形態論と意味』（日英対照による英語学演習シリーズ 2） くろしお出版，東京。
クラフト，キャサリン・A. (2022) （里中哲彦（編訳））『日本人が言えそうで言えない英語表現 650』 青春出版社，東京。
高橋敏之 (2023) 『話す力が身につく 5 分間英単語—「知ってる単語」を「使える単語」に変える毎日の練習—』 ダイヤモンド社，東京。
出水孝典 (2019) 『続・動詞の意味を分解する—変化の尺度・目的動詞・他動性—』（開拓社言語・文化選書 82），開拓社，東京。
政村秀實 (2016) 『イメージでつかむ英語基本動詞 100』 くろしお出版，東京。

- Ausensi, Josep (2022) “Unaccusativity and the Way-Construction in English,” *Linguistic Analysis* 43, 41-69.
Fellbaum, Christiane (2013) “Purpose Verbs,” *Advances in Generative Lexicon Theory*, ed. by James Pustejovsky et al., 371-384, Springer Science+Business Media, Dordrecht.
Pustejovsky, James (1995) *The Generative Lexicon*, MIT Press, Cambridge, MA.
Pustejovsky, James (2001) “Type Construction and the Logic of Concepts,” *The Language of Word Meaning*, ed. by Pierrette Bouillon and Federica Busa, 91-123, Cambridge University Press, Cambridge.
Semin, Gün R. and Klaus Fiedler (1992) “The Inferential Properties of Interpersonal Verbs,” *Language, Interaction and Social Cognition*, ed. by Gün R. Semin and Klaus Fiedler, 58-78, SAGE Publications, London.
Schlesinger, Izchak M. (1995) *Cognitive Space and Linguistic Case: Semantic and Syntactic Categories in English*, Cambridge University Press, Cambridge.